

和歌山県の水草



和歌山県立自然博物館

あいさつ

昨今、水辺の開発に伴い、これまで耳にすることのなかった、親水という言葉をよく聞きます。それ程までに、日本の水辺は、私たちから遠ざかってしまったのでしょうか。農地改良、河川改修、埋立等々、水辺の環境があまりにも破壊された末に出来た言葉ではないかとも考えられます。

本来、私たちは農耕民族として稲を育て、^{いぐさ}藺草の^{しどけ}畳に褥^{ふし}て、水草と深い係りをもち今日に至っています。

親水という言葉の前に、水に親しんで来た歴史を振り返りながら、多様性に富んだ水辺の生態系に目を向け、水草を中心に様々な事を考えて見てはと思います。日本産高等植物5,300種のうち、約17%が絶滅危惧種であると言われ、それらが水辺に集中していることも見逃すことはできません。

今回、多くの方々の協力を得て、県下の水草を紹介する機会をもち、もう一度、水辺の重要性を認識しながら潤いのある社会を後世に残して行きたいものです。

和歌山県立自然博物館
館長 辰喜 洸

目次

和歌山県の水草	ページ
水草入門	1
浮葉植物	3
沈水植物	8
抽水植物	11
浮遊植物	14
絶滅危惧種	17
水草と私たちの生活	19
和歌山県の水草リスト	20

表紙写真は、オニバス・左上 ヒメコウホネの花・右上 オニバスの花
裏表紙は、ナガエミクリ
左下 ガガブタの花・右下 アサザの花

分布図



分布図の印は1989年～1996年の期間に当館の調査で確認した地点です。

水草入門

◆水草とは

みなさんは、右の写真の植物は、なんだと思いますか。
これはウキクサが水面に浮かんでいるようすです。きっと今までに、たんぼや、ため池、小さな溝などが、この草でおおわれているのを見たことがあると思います。

このガイドブックでの水草は「水中または水辺に生育し、植物体のすべてまたは大部分が水中にある、大型の高等植物」としています。そのため、ため池や河川のような淡水に生育する花の咲く植物を中心に、デンジソウやサンショウモのような水生のシダ植物も紹介しています。

水草の範囲をシャジクモのような淡水産の大型の車軸藻類や、イチョウウキゴケのような水生のコケ類（花の咲かない植物）にまで広げて考えることもありますが、このガイドブックでは取り扱っていません。



◆水草の生育形

水草は生育のしかたによって、根が水の底にくっついているものと、くっついていないで水面や水の中をただよっているものとの大きく2つに分かれます。さらに前者の水草は抽水植物、浮葉植物、沈水植物の3つに分かれます。

根が水底にくっつく
 抽水植物
 浮葉植物
 沈水植物
 根が水底にくっつかない - 浮遊植物

